

シキミの挿し穂の基部は緑枝部由来が優れる

シキミの挿し木時、発根率には基部による差はないが、仮植後及び本ぼへの定植後の生育や生存株率は緑枝部由来の方がやや優れる。

背景・目的

- シキミの増殖は挿し木によって行われ、これまでの試験により最適な挿し木条件の検討を行ってききましたが、「現地より木質化部の発根は良いが仮植後の生育が良くない」との意見があったため、挿し木から定植後までの生育について再度検討しました。

成果の内容

- 挿し木1年後の発根率は、木質化部で80.0%、緑枝部で81.7%であり、挿し穂の発根状態等に差はありません（表1）。
- 仮植後の樹高（図1）や、仮植1年後の生存株率及び発根状態等も差はありません（表1）。
- 定植後の樹高は、緑枝部の方が高く（図2）、定植1年後の生存株率も、木質化部で71.4%、緑枝部で87.5%であり、緑枝部の方が良好です。

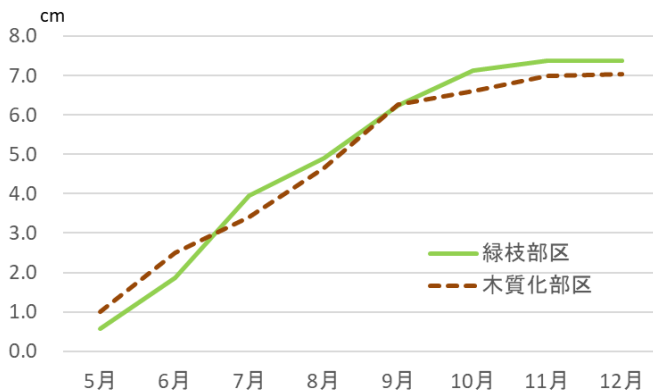


図1 仮植後の樹高の伸長推移
(2019年4月時点を基準(0)とする)

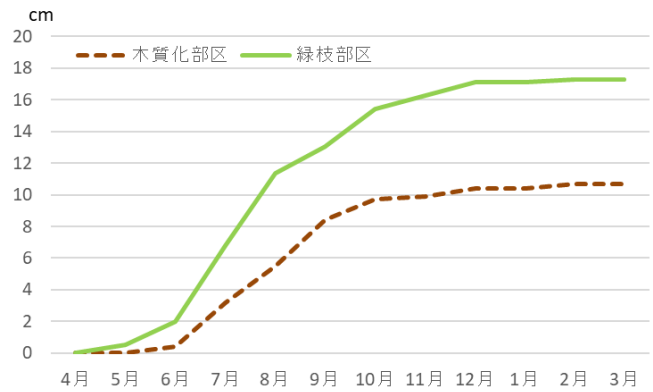


図2 定植後の樹高の伸長推移
(2020年4月時点を基準(0)とする)

表1 発根率・根量及び生存株率

試験区	発根率 (%)	根量*		生存株率 (%)	
		挿木1年後	仮植1年後	仮植1年後	定植1年後
木質化部区	80.0	2.0	3.8	95.8	71.4
緑枝部区	81.7	2.5	3.8	92.6	87.5

* 発根量は達観で、1：ごくわずかに発根が認められる、3：一次根、二次根の量が中程度、5：一次根、二次根の量が多い、と評価した数値の平均

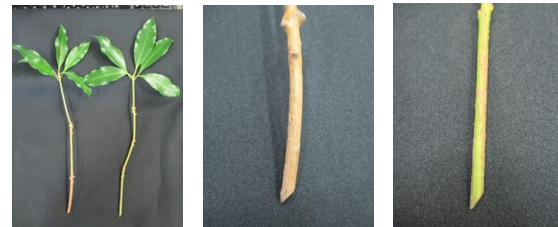


写真1 挿し穂
(中央：木質化部、右：緑枝部)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 普及対象地域・面積 東臼杵地域のシキミ産地

留意点

- 亜熱帯作物支場（日南市）における試験結果です。

関連研究成果カード：2021年度 前期 番号11

関連事業名：露地花き事業・花木品目の産地づくりを目指した安定生産技術の開発（県単）

研究期間：2018～2020年度